

生物多様性と経済社会の統合

2022/4/10 自然環境部 陸域担当チーム 見原 悠美

生物多様性の損失は、気候変動とならび私たちが直面している環境問題の2大危機といえます。両者はコインの表裏のような関係である一方で、気候変動に比べると、生物多様性の損失については「生物多様性が失われるのは大変そうだけど、実害を感じない」という印象が依然強いかもしれません。実際に、その損失が経済に与える影響や、これらの金額的価値への換算が課題となり、生物多様性への企業の注目度、基金の設立、投資は気候変動対策に大きく後れを取ってきました^[1]。

この「生態系が人の暮らしや経済にどう貢献しているか、その金額的な評価」という課題は、1990年代から国際的な課題として掲げられてきました。自然資本の再認識、生態系サービスの活用、その活用のための自然環境の維持・向上、といった持続可能なサイクルを作るためにも、この課題解決のための取り組みが加速化しています。

新しい動きの一つとして、昨年3月、国連が「生態系勘定（SEEA EA）」を経済報告の新たな国際基準として適用することを採択しました^[2]。これは国際的な経済体系である国民経済計算体系（SNA）と生態系関連の統計（生態系サービス・資産の金額換算評価）を連携させるための枠組みです。この枠組みは、5つの勘定項目に基づきます^[3]。5つとは①生態系の範囲、②生態系の質、③生態系サービス、④生態系サービスの収支額（世帯や企業ごとの利用額から算出）、⑤生態系の資産額です^[3]。生態系の資産額は、その生態系が供給する各サービスの正味現在価値を合計することで算出されます。正味現在価値とは、投資の採算性

の指標で、将来回収できる額と投資額の差で算出されます。そして、対象期間の生態系資産の始値と終値を比較することで、その期間に生態系が向上、劣化、維持、価格変更に伴う変化をしたか、金額の増減により評価をします^[3]。

この枠組みが普及することの意義は、主として、生態系の社会貢献度を金銭的に定量評価でき、既に市場にある商品やサービスと比較が可能になることです。また、生態系の空間的な劣化と向上を定量的にモニタリングすることも可能になるでしょう。生物多様性条約事務局は、ポスト2020生物多様性枠組の目標の進捗評価の指標に、SEEA EAの評価が活用されることを示唆しています^[4]。

ただし、この枠組みにもいくつかの課題が残っています。一番大きな課題としては、“生態系”自体の独立した市場がまだ確立していないことです^[5]。また、各国でこの勘定プロセスについてのガイダンスを示す必要があり、各評価者がこれを理解し、政策や事業に浸透するにはまだ時間がかかると考えられています^[6]。さらに、生態系の範囲、質、サービスのデータを各所で充実させていくことも必要になっていきます^[6]。

このような評価方法の基盤となる各生態系のデータは、主に現地調査と空間解析によって記録・収集・統合されることとなります。

当社においても、環境調査が経済・社会と生態系をつなぐ重要な役割を持つことを常に意識し、今後も陸域生態系・海域生態系の正確な記録と評価に努めてまいります。

[1] Jessica Tasman-Jones. "Biodiversity struggles to achieve momentum of climate funds". ESG Clarity. 2019/8/16. <https://esgclarity.com/biodiversity-struggles-to-achieve-momentum-of-climate-funds/>.

[2] Fiona Smith. "UN officially adopts the SEEA-EA system as the new global standard of economic reporting". Natural Capital Ireland. 2021/3/17. <https://www.naturalcapitalireland.com/post/un-officially-adopts-the-seea-ea-system-as-the-new-global-standard-of-economic-reporting>.

[3] United Nations et al. (2021). System of Environmental-Economic Accounting—Ecosystem Accounting (SEEA EA). White cover publication, pre-edited text subject to official editing. Available at: <https://seea.un.org/ecosystem-accounting>.

[4] Jillian Campbell. "Post-2020 Global Biodiversity Framework Monitoring Framework". Convention on Biological Diversity. https://unece.org/sites/default/files/2021-03/S2_1_UNEP-CBD_EN.pdf.

[5] Central Statistics Office. "Information Note on Ecosystem Accounting". Central Statistics Office.

<https://www.cso.ie/en/releasesandpublications/in/ea/informationnoteonecosystemaccounting/structureofecosystemaccounting/>.

[6] Catherine Anne Farrellほか (2021) Applying the System of Environmental Economic Accounting-Ecosystem Accounting (SEEA-EA) framework at catchment scale to develop ecosystem extent and condition accounts. One Ecosystem 6: e65582. <https://doi.org/10.3897/oneeco.6.e65582>